

9年ぶりの日本シリーズ出場を賭けて宿敵福岡ソフトバンクホークスとファイナルステージを戦ったファイターズ！ 0勝3敗の崖っぷちから3連勝…「そのまま勢いに乗り日本シリーズへ！！」と期待が高まりましたが、惜しくも惜敗。月曜日の夜は悔しさで悶々とした方も多いのではないのでしょうか。

試合後の選手達、誰も言葉を発せず、スコアボードを見つめる目には涙が滲んでいましたね。新庄監督のコメントにもあるように、来季はもっと強くなって、北海道をもっと盛り上げてもらいたいですね。

PS：実はタイガースファンの園長… 大好きなタイガースと地元ファイターズの日本シリーズを心待ちにしていたので、楽しみが一つ消えてしまいいしょぼりです（涙）

涙も笑顔も成長の証～ドッチボール大会～

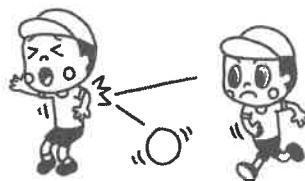
ファイターズとホークスとのファイナルステージに負けないくらいの熱戦を繰り広げたのが、年長達による「ドッチボール大会」です！ 今年も笑いあり涙ありの熱戦でしたよ（笑）3クラスをさらに6チームに分け、子ども達が自分達でチーム名やキャプテン、外野を決め、作戦を練りながらトーナメント戦に挑みました。「どうすれば勝てるか?!」「どんな役割が向いているか?!」… 子ども同士の真剣な話し合いの中に、互いを認め合う姿がありました。

練習では“逃げる”を専門にしていた子が、試合では前線に出てボールをキャッチする勇気を見せたり、キャッチが苦手だった子が何度もボールをキャッチしたり、仲間のためにパスを繋いだりと、それぞれが自分の「できる!」を広げていく姿が印象的でした。!

勝って喜ぶ顔も、負けて悔し涙を流す顔も、全てが“本気”で挑んだ証です。

子ども達の試合の後には、保護者の方の試合も行われ、最初はお淑やかに控えめだったママ達も次第に“本気モード”に… 笑いと歓声に包まれたひとときになりました（笑）

子ども達の成長と親子の絆を改めて感じる… 温かく熱い一日でした!



=ATTENTION=

来週27日（月）・28日（火）は午後保育です。降園時間は通常になりますのでご注意ください。

28日（火）は「お誕生会」です。歌のプレゼントはひまわりぐみの子ども達です。ひまわりぐみの保護者の方「1名」が見学できます。

「失敗できる場所」が子どもを強くする! Part 2

～不登校が増える時代に考えたいこと～

2000年代に入ってから、教育の世界でも「学校はサービス業」という言葉が聞かれるようになりました。保護者の要望を丁寧に聞き取り、子ども達一人ひとりにきめ細やかに対応する… それ自体は大切な考え方ですが、一方で、「クレーム」や「要求」が過度に強くなり、学校が「失敗してはいけない場所」になってしまった面もあるように感じます。

たとえば、「成績が上がらないから先生を変えてほしい」「授業で答えられず嫌な思いをしたので、そういうことをさせないでほしい」といった声が増え、教師達も子どもを守ろうとするあまり、「失敗をさせない教育」になりがちになっているのです。でも、本来の教育はその逆…「失敗から学ぶ」ことこそが成長の源です。

一昔前なら、子ども同士のけんかも、忘れ物も、失敗も、みんな“成長の通過点”として受け止められていました。ところが今は、「失敗＝悪いこと」と見なされる風潮が強まり、いざこざを通じて人間関係を学ぶ機会が減っています。転んで立ち上がる経験をしないうまま、「転ぶこと」そのものが怖くなってしまふ… こうして「自信の芽」が育つ前に、そとつぶれてしまふのです（涙）

=失敗を笑える社会に=

思い返してみれば、私たち大人が笑って話せる思い出の多くは、少なからず“失敗”から生まれたものではないですか?! 忘れ物をして怒られた、友達とけんかして泣いた、発表で言葉が詰まった… あの頃は恥ずかしかったことも、今では「そんなこともあったね」と笑い話になってますよね。つまり“失敗できる場所”があるというのは、それだけで人が健やかに育つ証でもあるのです。

不登校の背景には、ひとりひとり異なる事情があります。家庭の環境、友人関係、性格、発達特性… けれど、その根底には「自分に自信が持てない」「人と比べてしまう」「社会が怖い」と感じる気持ちが共通しているように思います。だからこそ、幼児期のうちに「失敗しても大丈夫」という安心感を、たくさん経験することが大事なのです。小さなつまづき（心の揺れ動き）を繰り返しながら、「自分で立ち上げれる」力を育てる! その積み重ねが、やがて「どんな自分でも大丈夫!」という確かな自信になります。

=家庭と幼稚園ができること=

家庭で我が子が失敗したとき、つい「どうしてできないの!」と言いたくなることもあるでしょう。でも、ほんの少し言葉を変えただけで、子どもの心は救われますよ。「よく頑張ったね」「次はどうしてみようか」… 失敗の中にも“成長の芽”を見つけてあげる言葉をかけてあげたいですね。幼稚園も同じです。私達は、子どもたちが思いきり挑戦できるよう、教師がそっと見守りながら「できた!」の喜びを積み重ねる活動を大切にしています。逆立ちが上手にできなくても、縄跳びで失敗しても、泣いたあとには必ず励ましの声がある。その安心感の中で、子どもは少しずつ“心のバリア”を強くしていきます。

不登校という現象は、社会の鏡のようなもので「今の子どもたちが弱くなった」のではなく「今の社会が子どもを悲観している」と言えるかもしれません。大人が失敗を恐れず、他人の失敗にも少し寛容になれば… 子ども達はきっと、自分の足で前に進む力を取り戻していくはずです。

子どもが自信を持つために必要なのは、完璧さではありません! 心に留めておいて下さい…

